

# 反語文における〈指示詞の使用〉に関する研究\*

—韓・日両国語の対照を中心に—

金秀珍\*\*

tensikim@gmail.com

## 目次

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. はじめに  | 4. 指示副詞 |
| 2. 指示代名詞 | 5. おわりに |
| 3. 指示形容詞 |         |

Key word : 反語文(rhetorical sentence)、疑問型反語文(rhetorical questions)、指示詞(demonstrative)、修辭的语法装置(rhetorical grammar devices)、指示性(referentiality)、評価性(valuation)

## 1. はじめに

### 1.1 研究目的

韓国語と日本語には、話し手の主体的な判断をより強く伝えるために多様なレトリックを使用する反語文<sup>1)</sup>が存在する。ここでは反語文の中でも疑問型反語文を対象に、〈指示詞の使用〉というレトリカルな语法装置を

\* This work was supported by the National Research Foundation of Korea Grant funded by the Korean Government(NRF-2012S1A5B5A07037643)

\*\* 宗実大学 日語日文学科 非常勤講師、日本語学

1) 韓国語と日本語の研究では、反語文という用語より修辭的な疑問文や反語法などの用語で説明されている場合が多い。本稿では、韓国語の研究でよく言及される反語法が使用されている修辭的な疑問文の中で、修辭的な语法装置の条件が満たされる場合を対象に反語文という用語を使うことにする。

考察する。疑問型反語文は、形態的には疑問文の形式を取っているものの、伝達される内容は平叙文とほとんど相違ないと言える。それは、共起するレトリカルな文法装置の統合的な作用により強い主体性を帯びるからである。例えば例(1)は、「そんな馬鹿な話、誰が信じるんですか」という疑問型反語文であるが、伝達内容は「そんな馬鹿な話、誰も信じない」である。

- (1) 「あの記者、お前が先に感染してその女子高生とやりにエイズをうつしたんじゃないかって疑ってたぞ」  
「そんな馬鹿な話、誰が信じるんですか」 (『神様、もう少しだけ』)

例(2)のように、韓国語にも疑問型反語文が使われることがある。

- (2) 삼순 : (히)... 그럼 나더러 자기 약혼식 케익을 만들란 말이야?  
 현우 : 미안하다. 알았으면 어떡해서든 안왔을 거다.  
 삼순 : 알고도 오면 그제 사람이냐? (『내이름은김삼순』)

例(1)と例(2)は、それぞれ「そんな」と「그제」という指示詞が使われている。このように、本稿では、反語文に使用される<指示詞の使用>というレトリックについて韓国語と日本語を対照・分析する。<指示詞の使用>における韓国語と日本語の異同について、部分的にでも明らかになるのではないかと思われる。

本稿では、指示の意味を持つ指示詞を大きく指示代名詞、指示形容詞<sup>2)</sup>、指示副詞に分け<sup>3)</sup>、それぞれの指示詞が反語文の中で指示性をどれくらい維持しているのか、話し手の主体的な評価が読み取れるのはどのように説明できるかを考察する。

2) 이성하(1998) 『문법학의 이해』では、指示詞を指示代名詞、指示形容詞、指示副詞、指示冠詞に分けている。が、本稿は文の中での働きに焦点を当て狭い意味で「コンナ・ソンナ・アンナ」を指示形容詞と見る。

3) 「이・그・저(この・その・あの)」という指示連体詞などを含めた指示詞全般に関する研究は今後の研究で考察することにする。

## 1.2 先行研究

金(2008)では、韓・日両国語の反語文の分類を行い、主に疑問型反語文を対象に〈疑問化〉〈述語の極性の置き換え〉〈無題化〉〈テンスのシフト〉〈全体否定〉〈可能動詞の使用〉〈取り立て詞の使用〉〈指示詞の使用〉という八つのレトリカルな文法装置について述べている。例えば「私はそこに行かなかった」という主張を伝達するために「誰がそんなところなんか行けるか」という反語文が発話される例をもって考えてみよう。この反語文には以下のようなレトリカルな文法装置があると言える。

### 〈疑問型反語文のレトリカルな文法装置〉

レトリカルな文法装置	内容
述語の極性の置き換え	否定主張の代わりに肯定表現をとる
疑問化	平叙文の代わりに疑問文形式をとる
無題文化	「ハ」の代わりに「ガ」をとる
テンスのシフト	過去形の代わりに非過去形をとる
全体否定	「私」の代わりに「誰が」をとる <sup>4)</sup>
可能動詞の使用	可能動詞をとる
取り立て詞の使用	取り立て詞をとる
指示詞の使用	(評価性を帯びる)指示詞の使用 <sup>5)</sup>

金(2012)では、レトリカルな文法装置の一つである指示詞のうち「コンナ・ソナ・アンナ」の使用について分析をした。その結果、「「コンナ・ソナ・アンナ」+N」パターンでは、共起する名詞に対するマイナス評価を持っている例が多く、「「コンナ・ソナ・アンナ」+形容詞(相当表現)+N」パターンでは、共起する形容詞(相当表現)が加わって話し手の主体的な態

- 
- 4) 「私はそこに行かなかった」という話し手自身に関する個人的な否定主張を「誰もそんなところなんかに行かない」のように全ての人がそうであるように主張するのが全体否定である。
- 5) 発話される反語文にも、伝達されている話し手の主張にも指示詞が使われているが、反語文の中に登場する指示詞には反語文ならではのレトリックとの絡み合いから話し手の主体的な評価が読み取れやすくなると言える。

度が明らかになることを指摘している。

本稿では上記の金(2008)でのレトリックを顧みることにし、そこで指示詞の部分的な現象指摘にとどまっていたものの補完に努めたい。この作業は、〈指示詞の使用〉というレトリカルな文法装置に関する体系化のために意味のある研究になると言える。なお、金(2012)では指示詞の分類は行わず、使用頻度の高い「コンナ・ソンナ・アンナ」を中心に限られた範囲で指示詞について考察を行っているが、ここでは指示代名詞、指示形容詞、指示副詞まで研究範囲を広げる。さらに、「コンナ・ソンナ・アンナ」は文中での機能から指示形容詞として扱うこととする。

以下、反語文における指示代名詞、指示形容詞、指示副詞の使用について考察を行う。

## 2. 指示代名詞

まず、コ系列から見てみよう。

次の例(3)は「이걸 나는 안 받는다」、例(4)は「これは偶然と言えない」という話し手の主張を伝えている反語文である。指示詞「이것(これ)」が使われている例文で、目の前にある現金入りの封筒を指したり(3)、急な状況の変化を指したり(4)する場面である。

- (3) 진수: 아.(안 주머니에서 봉투를 내민다) 도상이는 나한테 난리고 강승연씨는 아예 출근도 안하고, 나보고 어찌라는 건지 모르겠네. 이거 원래 도상이 줄 나머지 돈이었는데 두 사람이 알아서 해결했음 좋겠는데. 누가 갖던지.

승연: (기분 나쁜) 이걸 제가 왜 받아요 저희 아무 사이도 아니고 선배 괜한 오지랖인데... (『커피하우스』)

- (4) 「気づいてるか、飯守君？」

「なにがですか？」

「また五月だ。去年の発病も五月に集中し、今年も五月に入ったらいきな

り病例が出た。これが偶然と言えるか」

「……」

「なにかあるんだ。五月という時期に、黒手病を発症させる何かか」

(『黒い春』)

指示の機能しかない「これは本ではない」の「これ」とは違って、目の前にある物や状況を指しているのに例(3)と例(4)の「これ」には話し手の評価が読み取れる。つまり、例(3)には「私が受け取ってはいけないこんなもの」というニュアンスが、例(4)には「偶然と言えないこんな状況」というニュアンスが伝わってくる。このように指示代名詞「이것(これ)」に関しては、韓国語も日本語も何かを指すという指示詞の機能とともに反語文の中で指示対象に対する話し手の評価が含まれることがある<sup>6)</sup>。

しかし、例(5)と例(6)は「나는 너 보라고 맨날 여기 있지 않는다」と「このまま、ここには居られない」という主張を行っている反語文であるが、現在話し手がいる場所を表す指示詞「여기(ここ)」には評価は読み取れない。例(5)は単に自分の職場を指している場面で、例(6)は自分達が仕方なく居るしかないその場所を指しているのである。

(5) 라임: 얼마냐고!

주원: 촬영 없을 땐 주로 여기 있는 거야? 여기 오면 볼 수 있는 건가?

라임: 너 보라고 맨날 여기 있잖나 내가? 얼마지나 불러! 돈 안 받고 싶어?

주원: 이러니까 자꾸 생각나지.

(『시크릿가든』)

(6) 「いいや、俺、ここに居る。あしたまで、こうしていたら起きられるようになるかも知れん。お前、付合ってくれよ、な」

遠山は言った。顔が少し青ざめている。

「このまま、ここに居られるもんか」

洪作が言うと、

「居られようが、居られまいが、こうしている以外仕方ないじゃないか。」

(『北の海』)

6) 本稿では、反語文における話し手の主体的な評価はある一つのレトリックから読み取れるのではなく、レトリカルな文法装置の絡み合いから生じるものと見る。他のレトリカルな文法装置に関しては金(2008)を参照。

このように、場所を表す例(5)と例(6)の場合は、反語文の機能からもその指示詞に評価性よりは指示性が強く感じられる。そしてこのような評価性の相違が、本稿において特に言及しようとする部分である。

次は、ソ系列を見よう。例(7)は「나는 그걸 안 받는다」という主張を、例(8)は「それは、ものを頼む態度ではない」という主張を行っている例文である。上記の「이것」と「これ」と同様に次の「그것」と「それ」にも話し手の評価があるように思われる。例(7)は反語文の直前に発話されている「싫다」という表現からも話し手の評価がわかるし、例(8)も「ものを頼む態度ではない、そんな態度は」という話し手の態度が伝わってくる。

(7) 은서: 얼마나 아픈지 몰라서 그래요. 정말 아프단 말예요. 근데 그 검살 다시 받아야 한다구요?

태석: 잘 참았으면서... 뭘 그래? 별거 아니라면서.

은서: 그럼 태석 오빠가 대신 한번 받아봐요.

태석: 싫다. 내가 그걸 왜 받냐? (『가을동화』)

(8) 「月曜日に出すから、夜までに書いて」

巧は立ち上がった。もう二時を過ぎている。豪が待っていると思うと、気がせいた。

「巧、ちょっと待ちなさい。なによ、その態度。それが、ものを頼む態度なの。」

巧は、母と向かい合ったまま黙っていた。 (『バッテリーⅡ』)

次は「そこ」が使われている反語文である。この場合、韓国語の例は残念ながらまだないが、日本語の実例を韓国語訳すると十分に使用可能であるため、さらなるデータ収集が待たれる部分である。例(9)から言えるのは、指示詞「そこ」が「このままだと取り返しのつかないことをやってしまいそうだ」と言っている相手に対し、話し手が「そこ」という指示詞を使いながら「そこまではやらない」という主張を伝えているということである。ここでは「まで」という取り立て詞との共起が特徴だと言える。つまり、指示詞自体のみならず、取り立て詞との絡み合いから「取り返しのつかないことをやる」という行動に対する話し手の評価が伝わってくるのである。

- (9) 「あのなあ、達朗は頭を突き出し、訴えた。「いい加減なこと言うな。おれ、このままだと取り返しのつかないことをやっちゃいそうなんだよ」「殺人とか?」  
「馬鹿。飛躍し過ぎだ。そこまでやるか」声を荒らげる。(『空中ブランコ』)

ア系列も韓国語の例が見つからない状況であるが、今回は日本語の例をもって考えてみることにする。

例(10)は「あれは女のやることじゃない」という主張を伝えている反語文で、この際「あれ」は女の人の行動を指している。ここでの「あれ」も「あんな下品な行動」というニュアンスが伝わる。

- (10) 直樹は苦笑いしていたが、うさぎは真っ赤な顔をして振り向くと、こっちに向かって中指を一本つき上げてみせた。  
やれやれと笑いながら、セイジが僕を見る。  
「あれが女のやることかよ、なあ」(『夜明けまで1マイル』)

人を表す人称代名詞(「こいつ、あいつ」など)や方向を表す代名詞(「こちら、そちら」など)も同じことが言えるだろう。

- (11) 「こいつの態度をみる!反省の色がまったくくない。こいつはこれでも人間か!」 (『族譜の果て』)  
(12) 「そうだとも。でなげりや計算高いあいつが、自分から進んで、俺たちのことをこそこそと調べたりするもんかよ」 (『朽ちた樹々の枝の下で』)

以上、反語文に使われている指示代名詞について考察を行った。その結果、場所を表す指示代名詞の場合は、指示性という機能のある程度残して使用されているが、その他の指示代名詞の場合には、評価を表す他の成分

7) 「それでも」もよく使われるが、今後指示詞の体系化の際考察する。

例) 「……だから、彼を捨てたんですか?」

「ああ、そうさ……産むんじゃなかったよ、まったく」

「あなたはそれでも母親ですか!？」満江の勝手な言い草を、これ以上黙って聞いていられた。 (『青の時代』)

や取り立て詞との共起、反語文全体が主張する否定の意味と絡み合い、指示代名詞が評価性を帯びるようになることを述べた。物を指す指示詞や人を指す指示詞は場所を指す指示詞より評価性の解釈を容易に伴う傾向があることも言えるだろう。<sup>8)</sup>

### 3. 指示形容詞

指示形容詞は指示代名詞に比べるとそれ自体に評価が読み取れ易いものである。しかし、金(2012)で指摘しているように、その評価性は共起する名詞の意味やその名詞を規定する形容詞(相当表現)から話し手の主体的な評価がはっきり伝達されるようになる。データでは、韓国語に比べ日本語のほうが「이런(こんな)・그런(そんな)・저런(あんな)」の使用が多く、その中でも「そんな」の使用は日本語の特徴とも言えるほどである。韓国語は現在のデータによると「이런」の使用が多く、使用分布や文型化<sup>9)</sup>においても韓国語と日本語では違いを見せている。

まず、コ系列から見てみよう。

例(13)は「이런 법은 없다」という主張を、例(14)は「ダムの中にも入らない限り、こんな山に囲まれた狭い場所で、不感地帯はできない」という主張を行っている反語文である。韓国語の場合は「이런+名詞+이/가+어뵈어요?」という文型がよく使われる傾向がある。なお、日本語の場合は「こんな」の後ろに話し手の評価を表す形容詞が伴うものが多い。例(15)は「誰もこんな胸くその悪いところに来ない」という主張を行っており、「こんな+形容詞(相当表現)+名詞」という名詞句になる。

8) コ系、ソ系、ア系で指示性や評価性の違いに差があるのか、現場指示と文脈指示で違いがあるのか、韓・日両国語の共通点と相違点など残された課題が多い。

9) 韓国語では「이런/그런 법이 어뵈어요?」「이런/그런 게 어뵈어요?」「이런/그런 경우가 어뵈어요?」など、日本語では「そんなこと知るか」「そんなことあるか」「そんなことわかるか」など、一つの文型のように固定化して使われているものが多い。



- (13) 헨리: 안돼. 아직 많이 남았어.  
 희진: (헨리 옆에 내려앉으며) 우리 둘이 편 먹고 할게요.  
 삼순: 어머? 이런 법이 어딴어요? 둘이 담비면 난 어떡하랴구요?  
 희진: 헨리 초보잖아요. 판 다시 돌려요. (『내이름은김삼순』)
- (14) 「だめだ……。どういふことか、部隊長とは連絡が取れない。呼びかけても、一切の応答がないという」  
 「なぜ部隊長だけ無線が通じない。ダムの中にでも入らない限り、こんな山に囲まれた狭い場所で、不感地帯ができるものか!」  
 (『ホワイトアウト』)
- (15) 「それはないだろう。CLEUが保護してくれると聞いたから、おれたちは来たんだぜ」キーンがいった。  
 「そうとも。そうじゃなかったら、だれがこんな胸くその悪いところに来るかよ」  
 マッコイがいった。 (『ダーク・ムーン』)

次は、ソ系列を見よう。

例(16)は「그런 건 없다(그런 경우는 없다)」を、例(17)は「そんな本はない」という内容の反語文である。特に例(17)の「そんな」は「あなたが言っているそのような本」を指しているが、反語文の前の文脈を見ると「なんだ、そのヘンテコな名前の本」という話し手の評価にあたる表現があるので、やはり評価が含まれていると言えるだろう。また、例(18)のように指示詞の後ろに評価を表す「ばかな」という表現と一緒に現れ、「そんなばかなことはない」という主張を行っているものもある。

- (16) 윤슬: (기막힌) 하! 나두 너 싫거든?  
 한태선: 알아요! 그래서 가는 거야.  
 윤슬: 그런 게 어딴어? 서로 싫은 거니까 공평하잖아.  
 (『시크릿가든』)
- (17) 「ラ・タ・タ・タムっていう本を探してた」  
 「いや、その手はくわん」私は言った。「なんだ、そのヘンテコな名前の本は。そんな本があるもんか」  
 「だって本当だもの」 (『夜は短し歩けよ乙女』)

## (18) 「結婚?」

「後悔してるんじゃないかと思ってさ」

「そんなばかなことあるものか」

父親はたちまちむきになった。

(『カラフル』)

最後に、ア系列であるが、韓国語の例はまだ見つかっていない<sup>10)</sup>。例(19)は「あんなときには、おまえのことまで気がまわらない」という主張を行っている反語文である。その他に「あんな明快な文章に、解釈も糞もあるか!」や「あんな不味いものが食えるか」という主張をする反語文もある。

## (19) 「あ……壮助、怪我をしたのか」

謙太郎が足から血を流している壮助を見て走り寄ってきた。

「今頃気づいたのかよ。鈍いな」

「何言ってる。あんなときにおまえのことまで気がまわるもんかよ」

「どれ、見せてみなさい」

(『新宿少年探偵団』)

以上、指示形容詞について見た。韓国語も日本語も現場<sup>11)</sup>で使われる指示形容詞には指示の機能は保たれるが、他の文の成分との共起や他のレトリックとの絡み合いによって評価性が出てくることが確認できた。実際に、韓国語の場合は「이런・그런・저런」の後ろに直接名詞が現れる反語文が多く、日本語の場合は「こんな・そんな・あんな」の後ろに名詞を修飾する形容詞(相当表現)が共起して使われる表現が多い。そして、韓国語には「이런／그런＋名詞＋이／가＋어뵈어요?」という文型が、日本語には「そんな＋こと＋動詞か」という文型が定着して使われる傾向が確認できる。

10) ア系列のデータ収集およびその考察も今後の課題である。

11) 現場指示と文脈指示という分類から見ると、反語文には文脈指示のほうが多いと言える。

#### 4. 指示副詞

まず、コ系列から見てみよう。

例(20)は「잘못한 거 바로고치는데 이렇게 겁이 나서야 학생들 못가르친다」  
 という主張を、例(21)は「너는 나한테 이럴<sup>12)</sup> 수 없다」  
 という主張を、例(22)は「こんなに暗くなってからは、誰も来ない」という主張を行っている。

(20) 조봉팔: 잘못한 거 바로고치는데 이렇게 겁이 나서야 학생들 가르치겠어!  
 (『두사부일체』)

(21) 희진: 니가 나한테 이럴 수 있어? 니가 뭐데! (두서없이 때리기 시작한다)  
 니가 뭐데 나한테 이래! 니가 뭐데... 니가 뭐데... 니가 뭐데 이 나쁜놈  
 아... (『내이름은김삼순』)

(22) 「来て」  
 「どこへ行くんです? あんまりここを離れるとまずいけどー」  
 「こんなに暗くなってから、誰が来るもんですか」  
 「まあいいけどー」 (『夜』)

このように、韓国語の場合「～이럴 수 있어?」という表現が文末に使われる反語文が特徴として見られるが、日本語には文型の面からの特徴は見られないと言える。指示性と評価性について言うと、韓国語はある程度文型化されていて指示の機能より評価の機能が大きくなっている見える。日本語の場合は「こんなに」の後ろに修飾される用言がくることで反語文全体から話し手の評価を伝える効果を上げていることがわかる。

次は、ソ系列を見よう。

例(23)は「죽는 건 그렇게 쉽지 않다」という主張を、例(24)は「石村はそんなに簡単にガセを信じない」という主張を伝えている。

(23) 진현: (조심성 없는 이 여자 때문에 너무 화가 난다) 죽고 싶어 환장했어  
 요?!!!

12) 「이럴 수 없다」は「이렇게 할 수 없다」と同じ意味で、異形態と見る。

삼순: (뺨을 툇 치며) 얌마, 죽는 게 그렇게 쉬운 줄 알어?

진현: (끔찍한 기억이 떠올라) 쉬워! 쉬우니까 조심해!

(『내이름은김삼순』)

- (24) 「つまり、見舞客に悪意があったとして、あることないことデッチ上げて石村をたきつけたとしたら？石村は、それだけでなくも病気でまいつているから、信頼していた上役にうらぎられたと知って、神経のバランスが崩れた。」

「ちょっと待ってくれ、石村がそんなに簡単にガセを信じるか?」

(『通勤快速殺人事件』)

このように、韓国語の場合は「～그렇게～줄 알어?」という文型の反語文が多く見られ、反語文全体の意味から、なお他のレトリックとの絡み合いから評価の意味がはっきり現れることがわかる。日本語は指示副詞自体の評価が強く感じられることは言えるが、文型化はしていない。

最後に、ア系列であるが、韓国語の例文はまだ見つかっていない。

例(25)は「そうでなきゃ誰も孫をあんなに汚ながらない」という主張を伝えている。

- (25) 「お義母さんはやり手で有名なんでしょう。帳簿づけもちゃんと自分でやるし、お客さんにだけは愛想もいって聞くよ。だから生き甲斐がなくなったなんて、息子のあんたの美し過ぎる解釈だよ。」

そして芝居のようにきつと見得をきり、言い放った。

「単に性格が悪いの。そうでなきゃ誰が孫をあんなに汚がるもんか?」

(『素晴らしき家族旅行』)

以上のように、指示副詞「이렇게・그렇게・저렇게(こんなに・そんなに・あんなに)」には、語彙そのものが持っている評価と、反語文で伝達される話し手の主体的な態度や評価とが合致し、否定的な主張をより明確に伝えていることがわかる。

## 5. おわりに

本研究は、韓国語と日本語の疑問型反語文を対象に、〈指示詞の使用〉というレトリカルな文法装置に関して考察したものである。

両国語の共通点は指示代名詞でも見られる。まず指示代名詞の中で物を指したり人を指したりするものには、前の文脈から話し手の主体的な評価を表す表現が発話として存在し、使われている指示詞にそのような評価が強く読み取れる。しかし、場所を表す指示詞の場合は、現在話し手がいる場所を指すものが多く、そのような評価は読み取りにくい。

相違点は、指示形容詞、特に「コンナ・ソンナ・アンナ」の場合、韓国語は「『이런・그런・저런』+名詞+ 이/가 어땠어요? 」のようにパターン化しているものが多い。日本語は「『コンナ・ソンナ・アンナ』+形容詞(相当表現)+名詞」のような名詞句を用いて話し手の主体的な評価を伝えているものが多い。

指示副詞は、韓国語の場合「니가 나한테 어떻게 이럴 수 있어? 」のように「어떻게」と「이렇게」が共起し、その後に「~수 있어? 」が続く用例が多い。日本語はまだパターン化はできないが、指示副詞自体に評価の意味が含まれており、反語文全体から話し手の主体的な評価を読み取ることができると言える。

以上のように、韓国語と日本語の反語文に駆使される〈指示詞の使用〉というレトリックには、その指示性の希薄化とともに話し手の主体的な態度や評価などが前面に出るようになることを述べた。明確な指示性のある代名詞から評価性の強い副詞までを対象に分析しつつ、指示性が希薄化されるには文脈からの話し手の評価を表す表現や他のレトリックとの絡み合いが深く関わることがわかった。特に、韓国語には一定の文型として現れることが多く、それは指示詞の指示性が反語文という形式を伴うことで評価性を大きく帯びる証拠であると言える。それは話し手の評価を表す他の文型の派生を必要としないことから裏付けられる。

今後は、反語文に使用される指示詞全体を体系化する作業を通して、反

語文という文類型の中に見られる指示詞の文法化に関する様々な条件についても考察していきたい。

### <参考文献>

- 고영근외(1985) 『표준국어문법론』 탑출판사, p.71-114, 288-373  
 김승곤(1991) 『한국어 통어론』 건국대학교출판부, p.21-204  
 박영순(2001) 『한국어 문장의미론』 도서출판 박이정, p.67-199  
 이성하(1998) 『문법화의 이해』 한국문화사, p.55-119  
 이익섭외(1999) 『국어문법론 강의』 學研社, p.133-159, 220-266, 315-332,  
 한길(2005) 『현대 우리말 반어법 연구』 강원대학교 출판부, p.13-277  
 安達太郎(1999) 「疑問文における情報要求と情報提供」 『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版, p.75-98  
 太田朗(1980) 「否定と疑問文、命令文、感嘆文」 『否定の意味』大修館書店, p.618-660  
 金秀珍(2008) 『反語文のレトリックに関する研究』韓國外国語大学大学院博士論文, p.32-47, 120-138  
 \_\_\_\_\_(2012) 「反語文における<指示詞の使用>-「コンナ・ソンナ・アンナ」の分析を中心に-」 『日本言語文化』22, 韓国日本言語文化学会, p.65-81  
 金水敏他(1992) 『指示詞』 ひつじ書房, p.74-90  
 金原鑑(2004) 「観念指示用法における「コ・ソ・ア」について—その意味素性及び機能領域の特徴を中心に—」 『日本研究』23, 韓国外国語大学校日本研究所, p.485-506  
 鈴木重幸(1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房, p.43-251  
 鈴木智実(2004) 「指示詞「そんな」に見られる感情・評価の意味—その意味の実体を探る—」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』31号, 東京外国語大学留学生日本語教育センター, pp.61-75  
 \_\_\_\_\_(2006) 「「そんなX…」文に見られる感情・評価の意味—話者がとらえる事態の評価・意味と非予測性—」 『日本語文法』6-1, 日本語文法学会, pp.88-105  
 鄭相哲(1998) 「日本語反語文の研究」 『韓国日語日文学報』41, p.217-230  
 樋口文彦(2001) 「形容詞の評価的な意味」 『ことばの科学10』 むぎ書房, p.43-66

### <用例出典>

[韓国語]

- ①www.20woo.com
- ②www.kbs.co.kr/drama/sundaybest/script00090.htm

『가을동화』 『내이름은김삼순』 『두사부일체』 『시크릿가든』 『커피하우스』

[日本語]

あさのあつこ(2004) 『バッテリーⅡ』 角川文庫  
 赤川次郎(1984) 『夜』 角川文庫  
 浅野妙子(1998) 『神様、もう少しだけ』 角川文庫  
 井上靖(1980) 『北の海』 新潮文庫  
 井伏鱒二(1970) 『黒い雨』 新潮文庫  
 太田忠司(1998) 『新宿少年探偵団』 講談社文庫  
 奥田英朗(2008) 『空中ブランコ』 文春文庫  
 真保裕一(1998) 『ホワイトアウト』 新潮社  
 真保裕一(1999) 『朽ちた樹々の枝の下で』 講談社文庫  
 馳星周(2001) 『ダーク・ムーン』 集英社  
 林真理子(1997) 『素晴らしき家族旅行』 新潮文庫  
 三島由起夫(1971) 『青の時代』 新潮文庫  
 村山由佳(2005) 『夜明けまで1マイル』 集英社  
 森絵都(2007) 『カラフル』 文春文庫  
 森見登美彦(2008) 『夜は短し歩けよ乙女』 角川文庫  
 森村誠一(2004) 『通勤快速殺人事件』 ワンツーマガジン社  
 梁石日 『族譜の果て』 幻冬舎文庫

접수일: 6월 30일

심사완료: 7월 25일

게재결정: 7월 29일

<Abstract>

### **A study of demonstratives in rhetorical sentences**

-A contrastive analysis in Korean and Japanese-

In this study, a rhetorical grammar device known as <the use of references> was taken into consideration that oriented around rhetorical questions of the Korean and the Japanese language. When expressing rhetorical sentences, both countries had in common - the many uses of rhetorical references and [geu/so series] - but the following differences were found through a detailed analysis.

One can analyze that the references included assessments of the narrator as the demonstrative pronouns that refer to objects or people often followed a context that expresses an independent assessment of the narrator. However, references referring to places are used as an expression of simple reference that puts the location of the narrator as a standard location and therefore not interpreted as being evaluated. Demonstrative adjectives, especially [i-reon, geu-reon, jeo-reon (konna, sonna, anna)] in Korean often uses a sentence structure of [(i-reon, geu-reon, jeo-reon) + noun + i/ga eo-di-seo-yo?]. Japanese often uses a noun phrase such as [(konna, sonna, anna) + adjective (substantial expression) + noun] to deliver the assessment of the narrator.

There are fewer examples of rhetorical adverbs in both languages. In Korean, there are many expressions including [i-reo-ke] such as [ni-ga na-han-te eo-tteo-ke i-reol su i-seo?] while in Japanese, one cannot put it in a sentences structure, the rhetorical adverb itself contains the meanings of the evaluation, and therefore can read the evaluation of the speaker from the entire rhetorical sentence.